

重春まちづくり 広報

2021
年度版

発行/重春まちづくり協議会
〒677-0056 西脇市板波町678
TEL.0795-22-1612 FAX.0795-22-7037

コスモスと収穫祭

今年も「景観づくり」として、2ヶ町でコスモスを咲かせました。平野町では、町内の最高所で県道の西側の田んぼに美しく咲きました。下から見ると“コスモスの生垣”の様で、高校生の下校時には随分と美しく見えたことと思います。また板波町では、“コスモスの迷路”として多くの人々に楽しんで頂きました。

収穫祭は11月6日(土)、晴れた日の午前9時から“サツマイモと里芋”を掘って収穫を喜んで頂きました。サツマイモは、係りの人が蔓を巻き取り株を掘り易くして、多くの人々に掘る事と大きな芋の収穫を楽しんで頂きました。和田町から参加された藤原由佳さんは「こんな沢山掘れてうれしかった!」と喜ばれておりました。その後、同じ田んぼに植わっていた「里芋掘り」もして頂き、明るい喜びと収穫の楽しみを味わって頂いた一日でした。

板波町 藤原孝三



板波町コスモス畑



平野町コスモス畑



まちづくり会の環境づくりとして取り組んできましたコスモスの育成について、ここ数年、鳥獣(鹿・猪等)に荒らされ、なかなか開花させることができませんでしたが、2021年、鳥獣侵入防御網の設置等の効果もあり、見事に開花～満開になり、癒し・憩いの一助となりました。

重春地区の地図を作ってみました!!

野村町によって、北と南に分断されています。北部4町の面積は3.12km²で人口は4,818人です。南部3町の面積は5.69km²で人口は1,168人です。人口密度にすると、北部は1,544.2人/km²で南部は205.3人/km²です。南部で1人の面積に、北部では7.5人が住んでいることとなります。



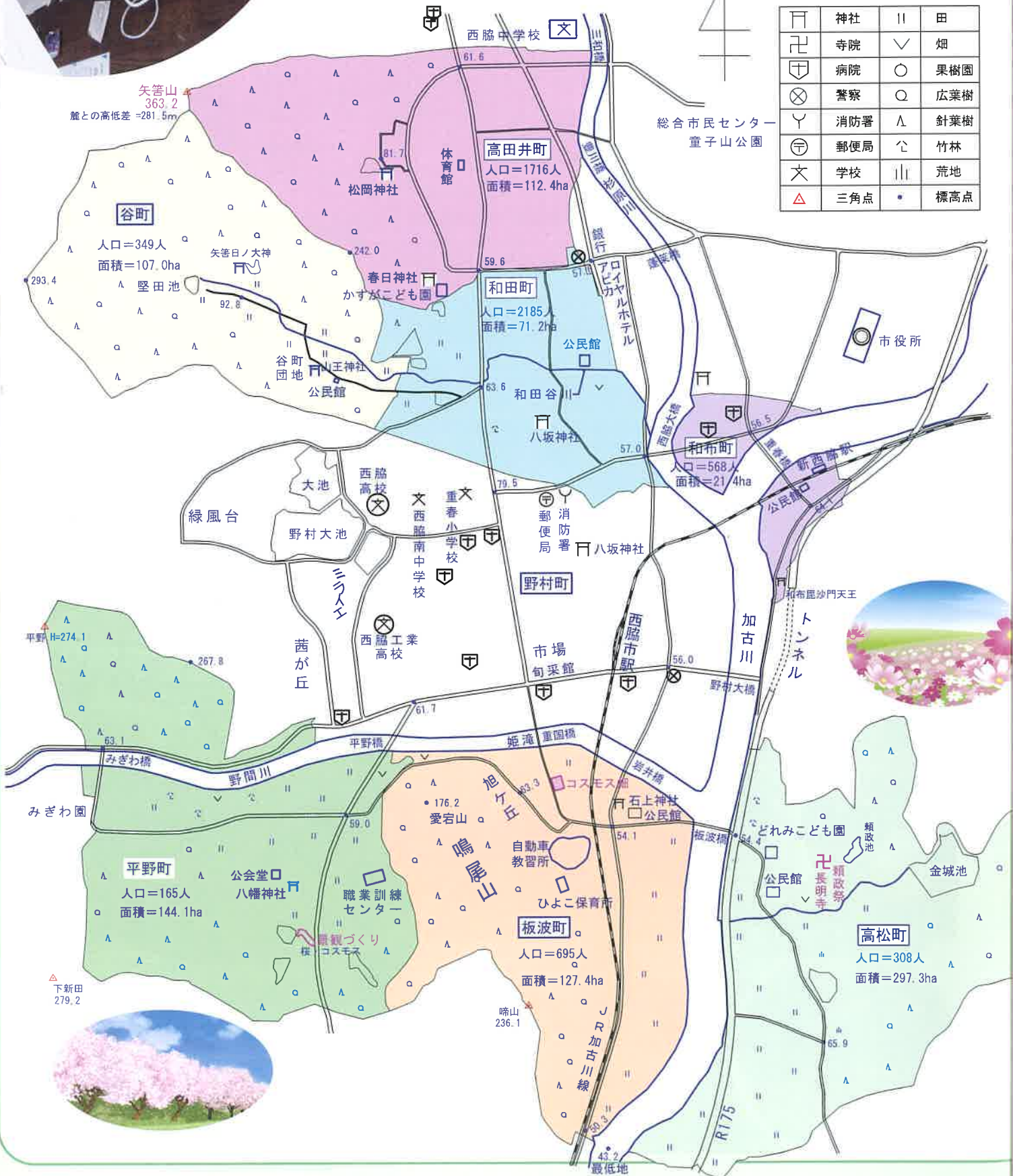
矢筈の鐘

一寸見 重春 S=1:20000



記号

卍	神社		田
卍	寺院	∨	畑
卍	病院	○	果樹園
⊗	警察	○	広葉樹
Y	消防署	△	針葉樹
⊕	郵便局	∩	竹林
文	学校		荒地
△	三角点	●	標高点





やはす かね 『矢筈の鐘』



矢筈山の会によって整備された道

昨年8月、ひょうご景観ビューポイント150選の矢筈山（西脇市高田井町）のいただきにある東屋に釣鐘を吊りました。平成28年5月に取り壊された高田井町旧消防庫の火の見櫓で半鐘として使用されていたもので、矢筈山に運び上げることを念願しておりました。

高さ60cm、口径34cm、重さ26.2kgの釣鐘、その龍頭にツルハシの柄を通し、通りかかった3人の協力を得て、無事、運び上げることができました。

東屋の直ぐ下には、火防（ひよけ）・火伏せの神様である秋葉神社、愛宕神社が高田井町によりお祀りされており、その思いをこめて「矢筈の鐘」と命名いたしました。

連日、多くのみなさまが登山され、鐘撞きも大好評で、音色は山裾でも聞き取ることができます。

今年の御来光登山は、荒天が予想され中止となりましたが、是非、天気の良い日に矢筈山にお登りいただき鐘撞きを体験して下さい。矢筈山は標高363mで、登山道も整備されており、お手軽に楽しめます。天候に恵まれれば明石大橋の主塔も望めます。いつか山頂でお出あいできるのを楽しみにしています。

（高田井町 吉井敏恭）



平野町の景観づくり 3品種の「さくら」植樹

西脇市は南で加東市と隣接しており、その加東市と隣接するのが重春地区の東から高松町、板波町そして平野町の3町になります。加東市（旧滝野町）から峠を越え西脇市に入って来た道路の西側の山麓に、ちょっと目を引くような“景観づくり”に平野町（自治会）が取り組んでいます。コスモス畑に加えて、今年度は、その上の山地に桜を植樹しています。山地になるため、作業は大変困難であったと思われます。平野町の方ご苦労様でした。

金城山
399.3
最高峰



まちづくり会の環境づくりとして2021年12月12日に『染井吉野』『河津桜』『八重桜』3種類の桜の植樹を行いました。

近い将来、開花し新たな景観スポットになれば幸いです。

頼政公ゆかりの町



長明寺境内



西脇市高松町ゆかりの武将、源頼政は、鶴（ぬえ）退治で知られています。

平安時代末期の武将で弓矢の名人、優れた歌人でもあり、文武両道の武士として高松町長明寺に墓所の1つとして祀られています。源頼政は宮中でも活躍し、正三位の位にまでなり源三位（げんさんみ）頼政とも呼ばれていました。歴史上に登場するのは、平治の乱で平家が勝利を収めたとき源氏において平家に味方したのが源頼政でした。やがて、平家の力が強くなり過ぎて、横暴な振る舞いが人々を苦しめ始めた頃に頼政が平家追討の旗をあげましたが、それに敗れ宇治の平等院で自害しました。それを継起に源義仲や源頼朝が次々と兵を挙げ源氏の天下となったのです。

鶴（ぬえ）退治のことは、平家物語によると「仁平三年夏、近衛天皇は奇病になやまされておりました。深夜になると黒雲が御所をおおい鶴の鳴き声が聞こえてその度に天皇は苦しみました。薬も名僧たちの祈願も効なくやがて雲の中に住む妖怪の仕業と考え弓の名手源頼政に妖怪退治が命じられた。きっと見上げた頼政はカーぱい弓を引き『南無八幡大菩薩』と心の弓に祈念して矢をは

なつと見事命中、落ちてきた怪物を家臣の猪早太（いのはやた）が刺し殺した。火をともして見ると頭は猿、胴は狸、尾は蛇、手足は虎、恐ろしいという以上である。天皇は感心され獅子王という名剣を下された。」と記されています。文中、頼政の家来である猪早太は、西脇市野村町の出身と言われ現在もJR西脇市駅侵入路側に墓碑があります。また、退治された鶴は、御所近くの川に捨てられ流れ流れて淀川に合流し、現在の大阪市都島区に流れ着き、地元の村人たちの手によって葬られ、今も鶴神社として残っています。流れ着いた先にも諸説あり、淀川からさらに支流の芦屋川等、複数の地域に鶴塚が存在しています。

高松町がゆかりの町である所以は、頼政が播磨地頭として当地を治めていたころ、高松町には矢の材料となる良質の矢竹がたくさん取れていました。弓矢の名人である頼政はこの高松町の矢竹を大変気に入り、ほとんどの自分の矢はそれを使っていました。鶴退治のときも高松町の矢竹を使っていたということで町民はそれを誇りに思いゆかりの町としました。毎年4月29日には高松町では多くの人達が参加して「頼政祭り」が盛大に催されています。ぜひ一度来て見て下さい。

高松町区長 大久保 均

町のTOPICS

2度楽しめて
プラスアルファの
コキア



板波町の道端にコキア（ほうき草）を植えました。夏には、鮮やかなグリーンが楽しめ、秋には真っ赤な紅葉が楽しめました。

でもそれだけではありません。木が枯れたら、枯れ木でホウキが作れます。

